

3.

課外活動について

課外活動への参加

ほとんどの学生が課外活動を経験

体育各部・サークル活動に「参加している」**52.4%**

「以前参加していた」**25.4%**

課外活動費

課外活動費は月額8千円未満が半数以上

自費で出費する課外活動費は、

月平均「8千円未満」が**58.1%**

その一方で、「2万円以上」が**9.7%**

学園祭の開催希望

大多数の学生が

学園祭の開催を希望している

74.3%が「肯定派」

51.1%が「学生としての一体感を味わいたい」

ボランティア活動

多くの学生が

ボランティア活動に興味あり

学生は、学術調査、環境問題、教育支援、
国際活動など、幅広く興味をもっている



課外活動への参加

1. ほとんどの学生が課外活動を経験

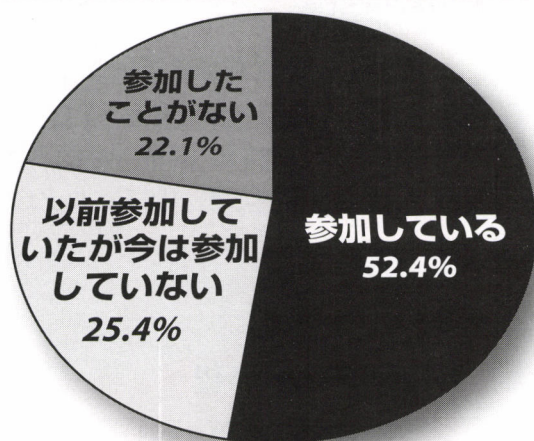


体育各部・サークル活動に「参加している」**52.4%**
「以前参加していた」**25.4%**

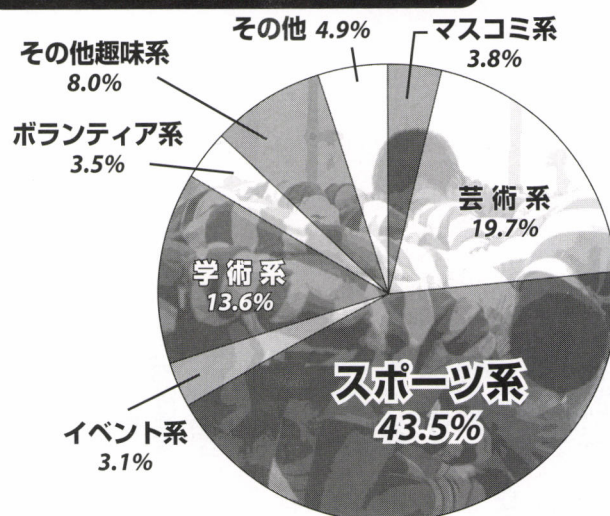
学生は、課外活動に積極的に参加しており、ほとんどの学生が課外活動の経験をもっています。課外活動のジャンルは、半数近くを「スポーツ系」のサークルなどが占め、ついで「芸術系」、「学術系」のサークルが続いています。

キャンパス別に見ると、西早稲田キャンパスは「学術系」、戸山キャンパスは「芸術系」、大久保、所沢キャンパスは「スポーツ系」の割合が高くなっているのが特徴です。

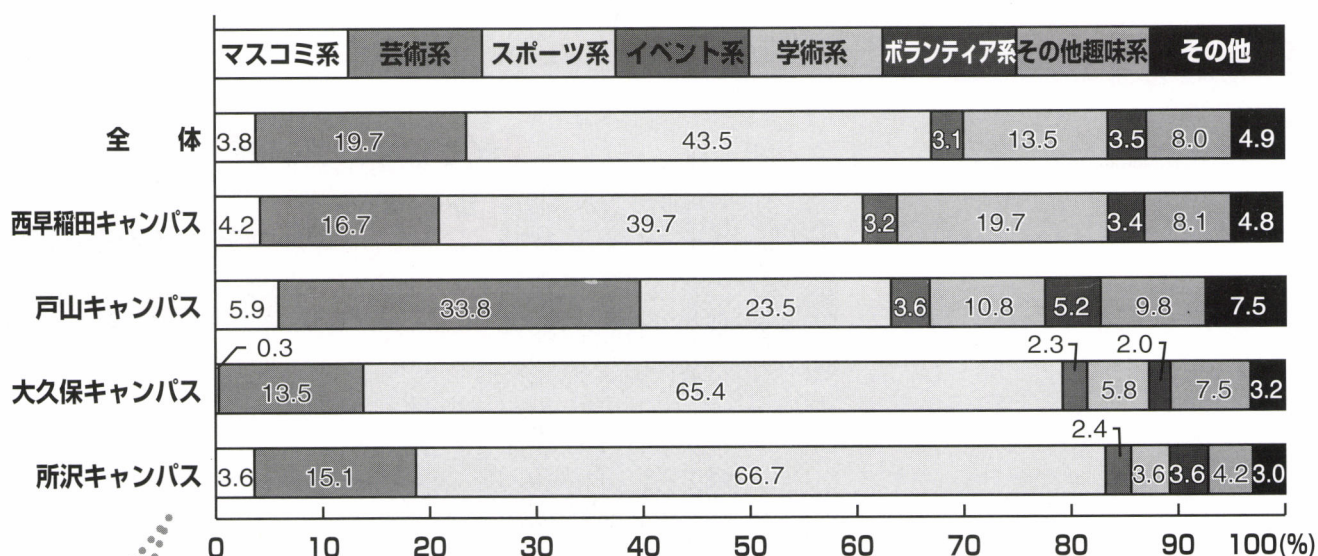
現在、体育各部・サークル活動(学内外不問)に参加していますか？



どんなジャンルですか(でしたか)？



参加している(いた)サークルはどんなジャンルですか(でしたか)？(キャンパス別)

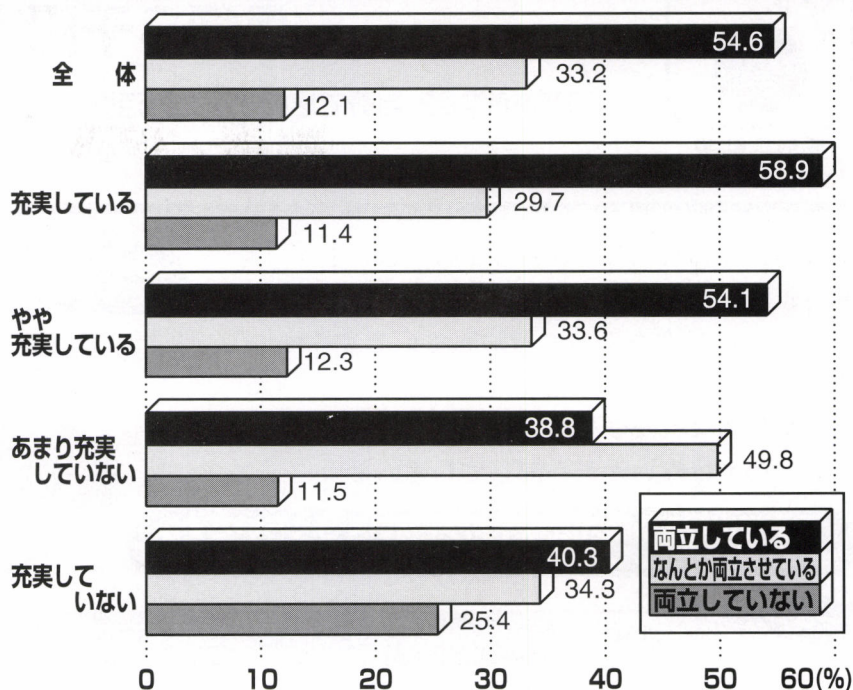


所沢キャンパスの学生は66.7%と高い割合で学生が体育各部・サークル活動に「参加している」と回答しています。

課外活動については、学業との両立の問題が避けて通れませんが、課外活動を行っている学生のほとんどは、両立できる範囲にとどめるか、努力して何とか両立させているという実態が分かります。

そして、さらに興味深い点は、課外活動と学業との両立が大学生活全体の充実感に極めて密接に関係しているという点です。アンケートでは、課外活動と学業を両立できている学生ほど、大学生活で自由を満喫していて、その結果、早稲田大学が好きという結果に結びついているようです。

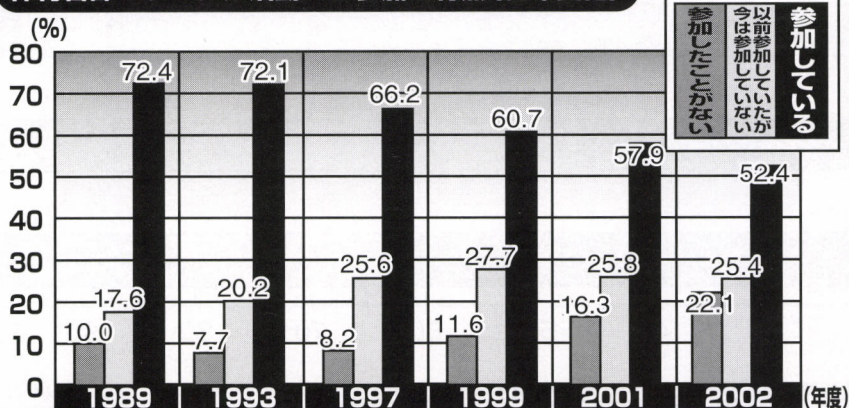
体育各部・サークル活動と学業は両立していますか(いましたか)? ／自由を満喫するという点で大学生活は充実していますか?



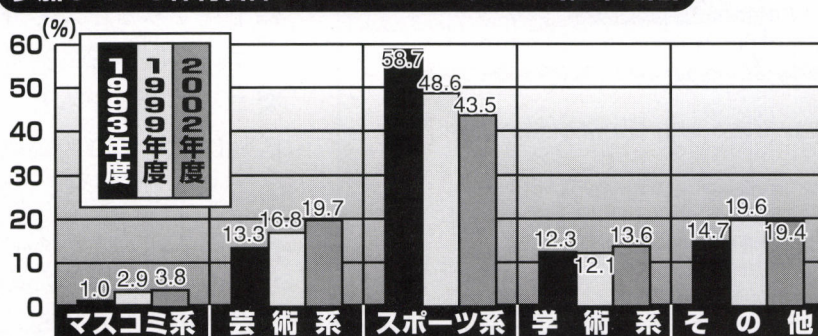
コラム

サークル活動に参加しない学生が年々増えています

体育各部・サークル活動への参加の有無(経年変化)



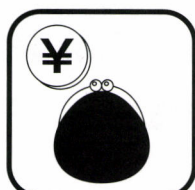
参加している体育各部・サークルのジャンル(経年変化)



経年変化を見るために各年度の質問項目の選択肢をまとめています。1997年度、1999年度の調査は、「学部学生」、「大学院学生」、「留学生」と対象者を分け、それぞれに別の質問項目で調査しているため、ここでは「学部学生」の数値を掲載しています。

大半の学生が体育各部・サークル活動に参加していますが、経年で変化を追ってみると、「参加したことがない」学生の増加が分かります。参加しない学生の増加は97年度以降に始まり、今年度初めて2割を超えました。「サークルと勉強を両立させて大学生活をエンジョイ!」といった以外の価値観で、大学生活を充実させようとする学生が少しずつ増えてきていると言えるでしょう。

ジャンル別に見ると、過去に一定して55.0～60.0%を占めていた「スポーツ系」の減少が顕著です。



課外活動費

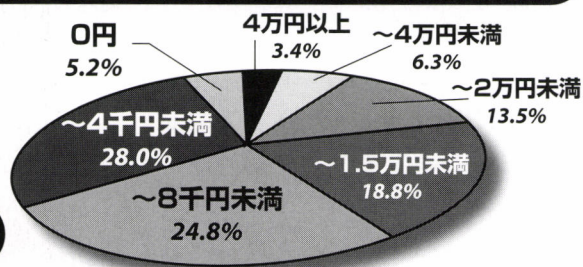
2. 課外活動費は 月額8千円未満が半数以上



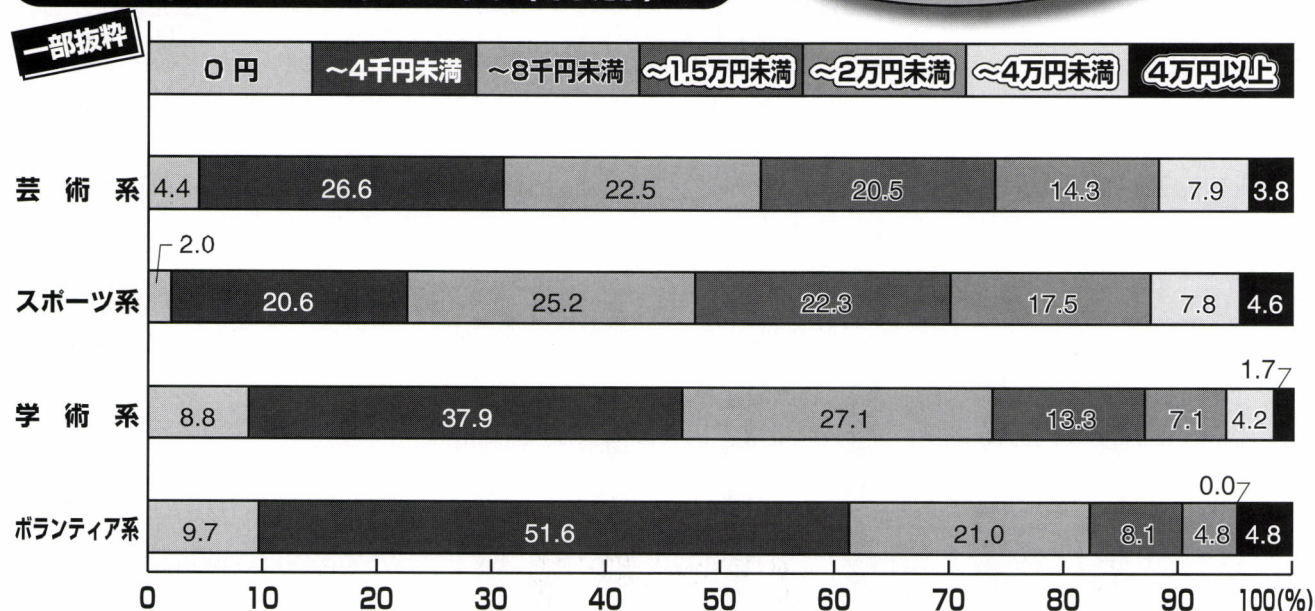
POINT 自費で出費する課外活動費は、月平均「8千円未満」が**58.1%**
その一方で、「2万円以上」が**9.7%**

課外活動に参加している学生の半数以上が、月額「8千円未満」にとどめており、生活を圧迫しない程度の節度をもって参加しているようです。その一方で、「2万円以上」や「4万円以上」も出費しているような学生もいて、学生生活を圧迫しているのではないかと心配してしまいます。

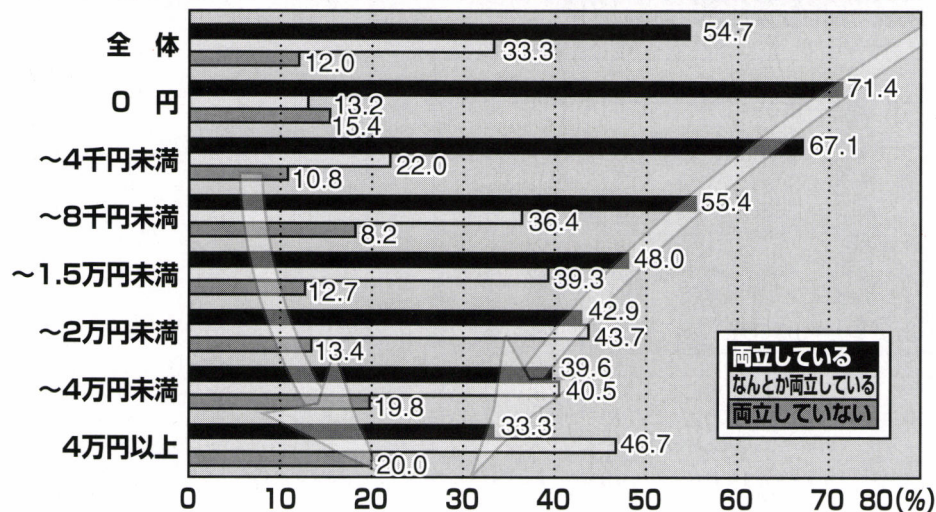
自費で出費する課外活動費は月平均いくらくらいですか（でしたか）？



自費で出費する課外活動費は月平均いくらくらいですか（でしたか）？／どんなジャンルですか（でしたか）？



体育各部・サークル活動と学業は両立していますか（いましたか）？／自費で出費する課外活動費は月平均いくらくらいですか（でしたか）？



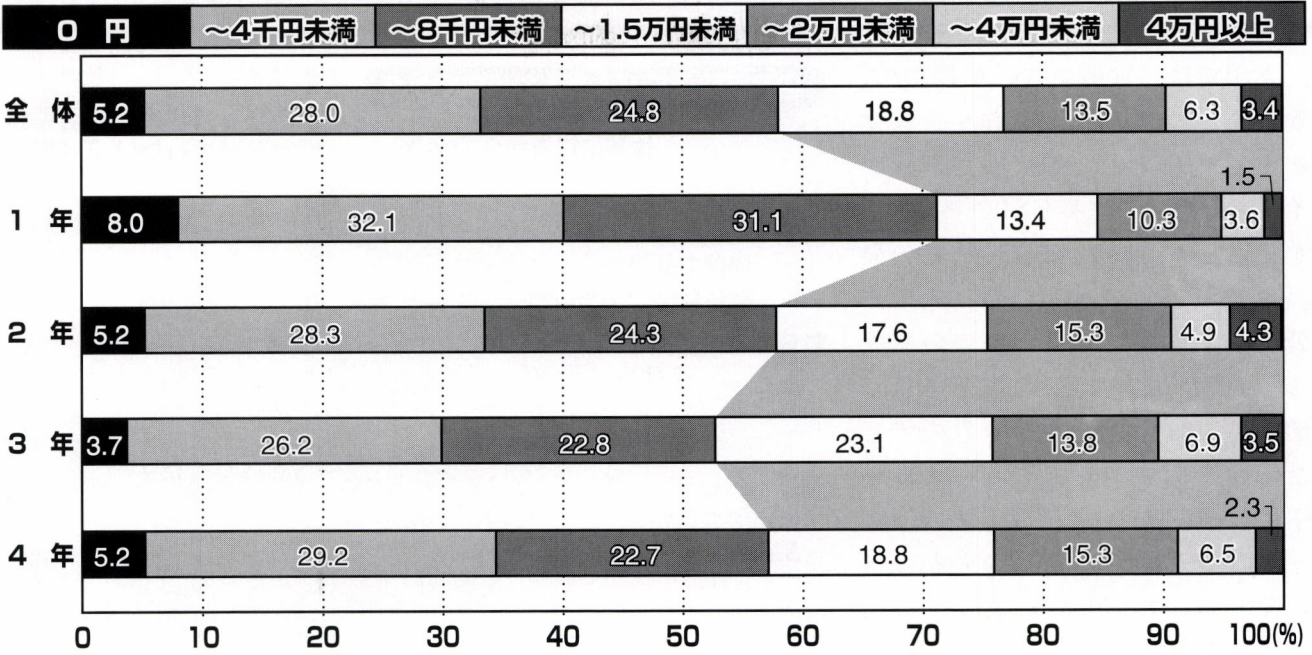
このことは、課外活動費と学業との両立との相関関係を見てみるとよく分かります。過度の課外活動費を要するようになると、課外活動によって時間が取られることはもちろん、活動資金をアルバイトによって賄うために、学業のための時間が確保できなくなってくるような苦しい生活の状況を想像することができます。

課外活動をジャンル別に見てみると、「芸術系」や「スポーツ系」に所属する学生は、どうしても課外活動費が大きくなる傾向があります。この他にも、学年が上がるにつれて活動費が増え、

3年生時にピークを迎える傾向があることが分かりました。実質的にサークルを取りまとめる3年生は、サークルの運営やコンパのための費用など出費がかさむようです。

一部抜粋

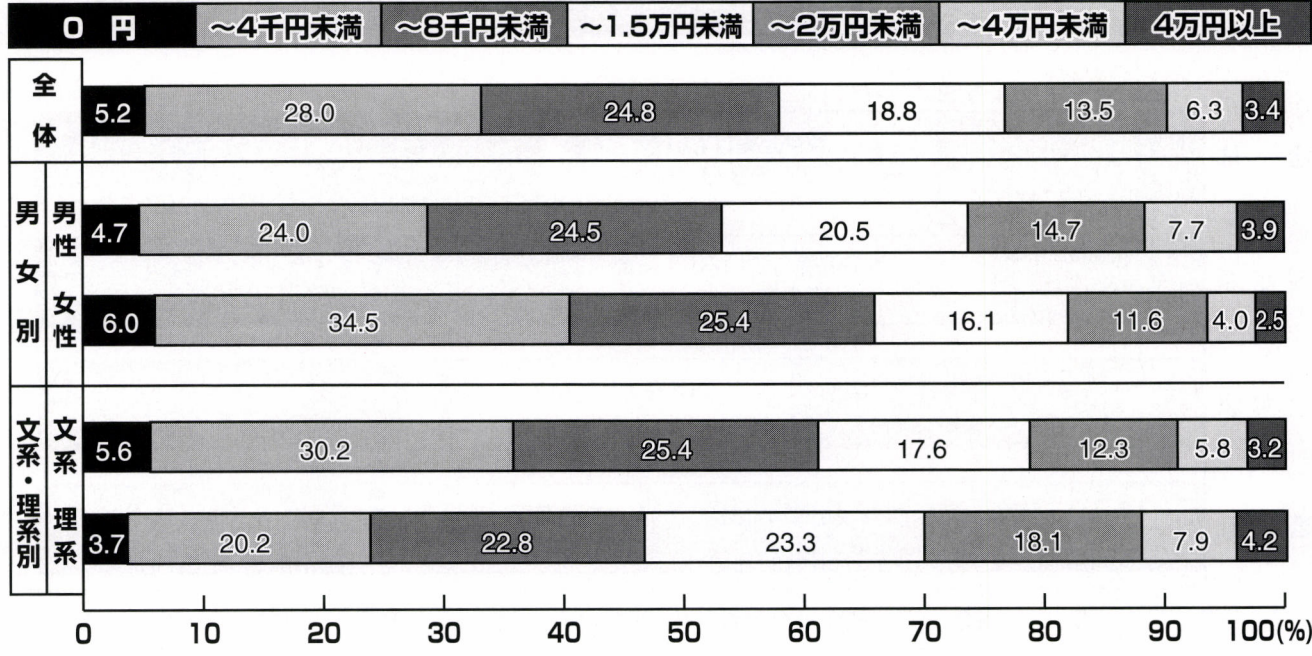
自費で出費する課外活動費は月平均いくらくらいですか(でしたか)? (学年別)

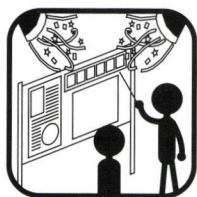


また、理系の学生の方が活動費が多く、男性の方が女性よりも活動費が多くなっています。この差は所属するジャンルによるものと思われます。出費がかさみやすい「スポーツ系」に、文系の学生が37.8%、女性が36.8%所属するのに対し、理

系の学生は64.6%、男性は47.7%と大幅に上回っていました。理系の学生の参加するサークルの多くが「スポーツ系」という傾向は、過去の学生生活調査を見ても同様のことが言えます。

自費で出費する課外活動費は月平均いくらくらいですか(でしたか)? (男女別・文系・理系別)





学園祭の開催希望

3. 大多数の学生が 学園祭の開催を希望している

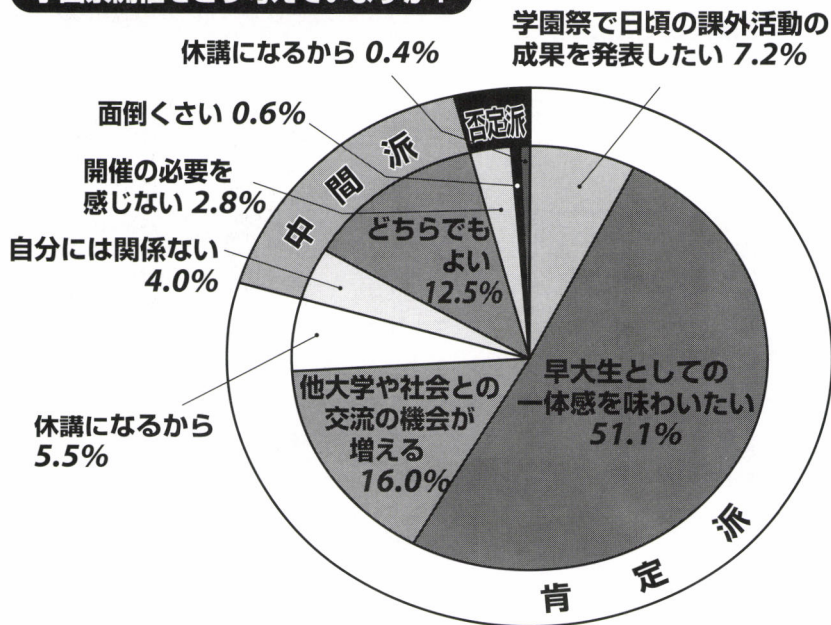
POINT

74.3%が「肯定派」
51.1%が「学生としての一体感を味わいたい」

本学では、1997年に「早稲田祭」が中止になって以来、昨年、大学が主催した学生会館オープニングイベントWASEDA EXPOや、学生がそれぞれ自主的な課外活動の発表を開催しているものの、大学が公認する学園祭は行われていません。かねて、学園祭の復活を望む学生の声は非常に大きいものでしたが、今回の調査でもこのような学生の声が裏付けられました。

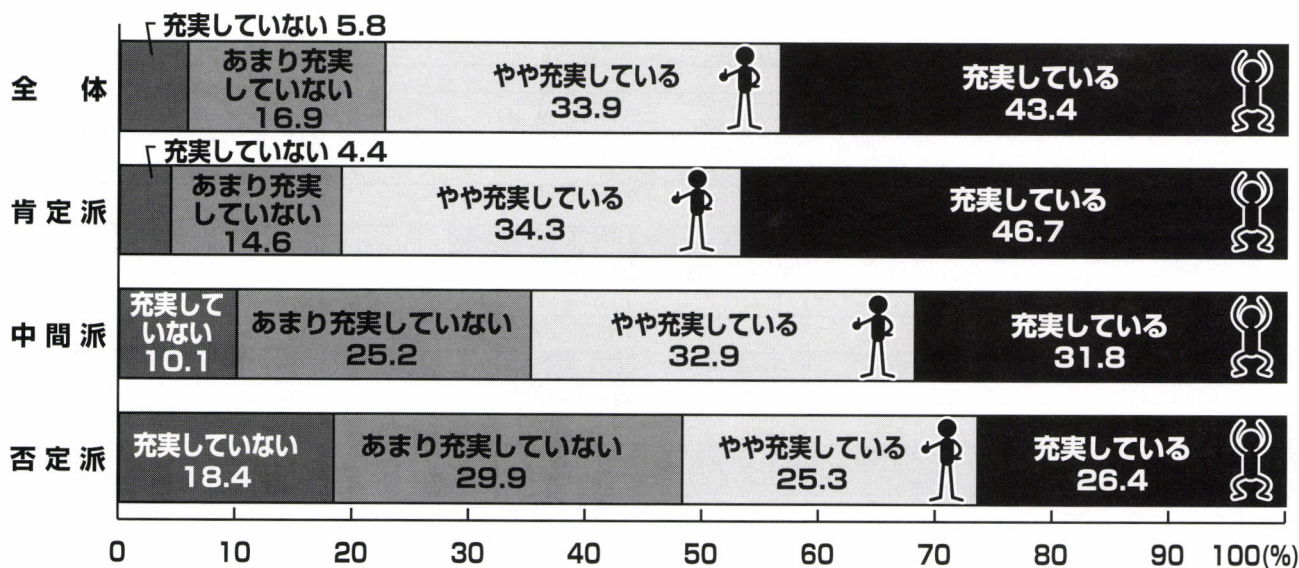
回答した学生の4人に3人が「肯定派」の回答をしています。復活を望む理由としては、「課外活動の成果を発表したい」という理由が考えられるところですが、これはわずかにとどまり、むしろ一般的には、「早大生として一体感を味わいたい」という理由が過半数を超えています。学園祭を「成果発表の場」というよりも、「仲間と何かをやるためのイベン

学園祭開催をどう考えていますか？



ト」として認識している傾向が強いと言えます。交友関係が充実している学生ほど、学園祭の開催を望む傾向がありました。

交友関係を構築するという点で大学生活は充実していますか？／学園祭開催をどう考えていますか？

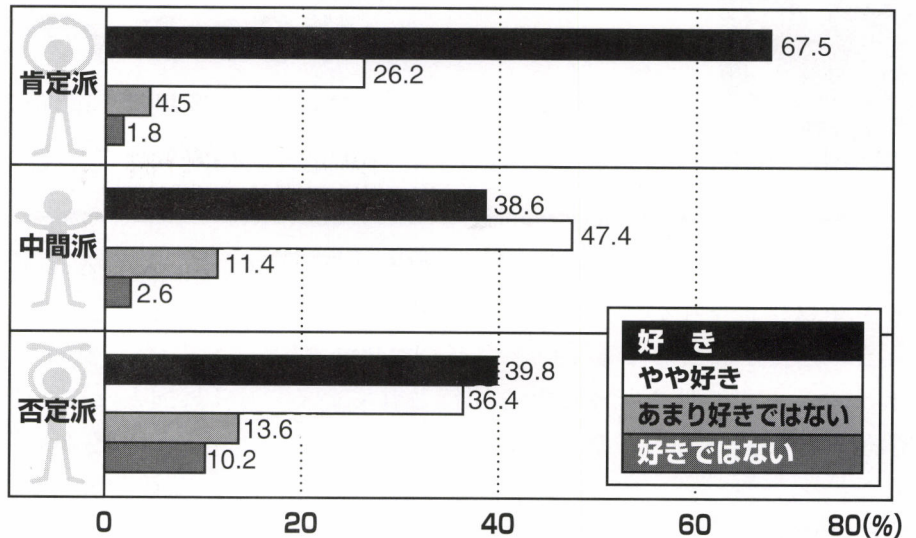


さらに、「肯定派」、「中間派」、「否定派」に分けて、相関関係を見てみると、課外活動が充実している学生、ワセダが好きな学生ほど、学園祭の開催を望むことが確認されました。課外活動が充実し、ワセダを愛する学生が、さらに仲間と協力して何かをやり遂げたいと思って、学園祭を望んでいるようです。どのような学園祭を望むかの自由記述回答をまとめてみると、「早稲田らしさ・個性を重視」

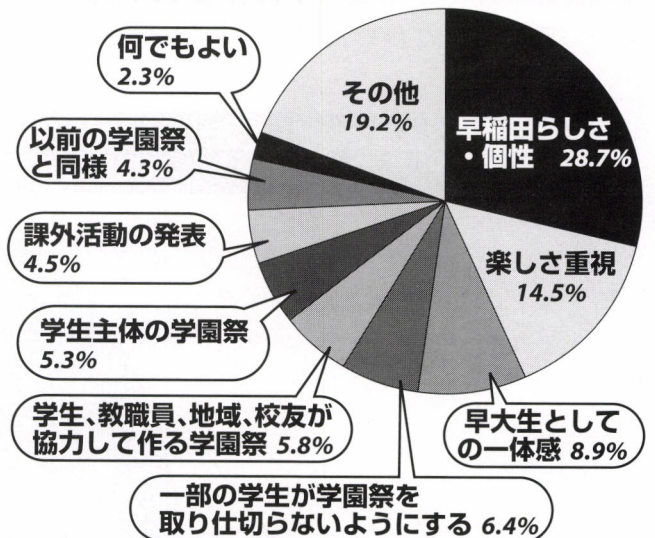
が第1位でしたが、その中には「日本一の学園祭」以外に、「〇〇のような学園祭が早稲田らしい」と、具体的に早稲田の個性を挙げた回答はほとんど見当たりませんでした。「楽しさ重視」、「早大生としての一体感」が高いのは、「サークルに所属しない学生も楽しめるような学園祭」を望む声が高いことが挙げられます。

また、「学生のやることに大学側が口出ししてほしくない」といった「学生主体の学園祭」より、「早稲田周辺地域や先生方とも協力して、OB・OGにもどんどん参加してもらうワセダが丸となってできるもの」というような、「学生、教職員、地域、校友が協力して作る学園祭」を望む声が高いのは注目すべきでしょう。

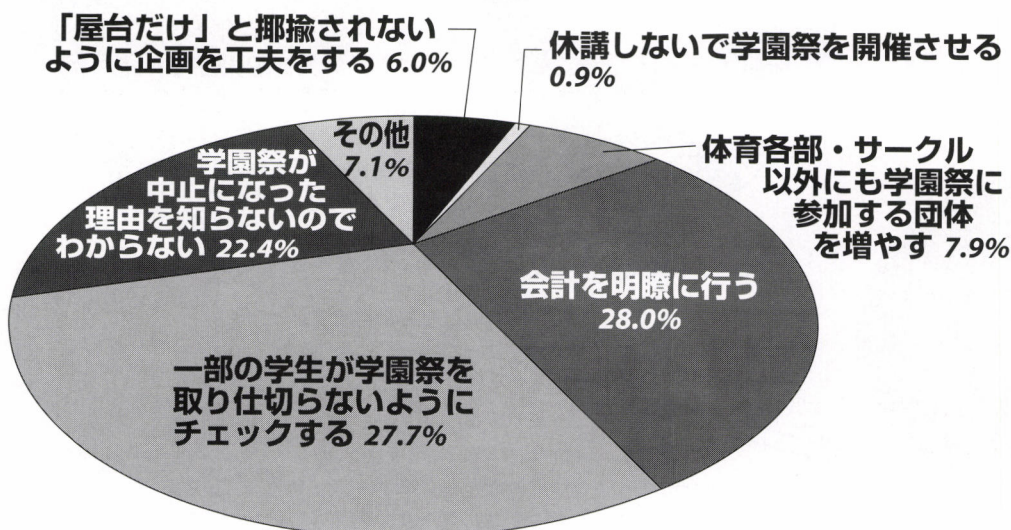
早稲田大学が好きですか？／学園祭開催をどう考えていますか？



開催するとしたらどのような学園祭を望みますか？



どうすれば学園祭が開催できると思いますか？



さらに、「どうすれば学園祭が開催できると思いますか？」という質問に対しては、「一部の学生が学園祭を取りしきらないようにチェックする」と「会計を明瞭に行う」という、基本的で、かつ現実味のある対策が挙げられています。



ボランティア活動

4. 多くの学生が ボランティア活動に興味あり



POINT

学生は、学術調査、環境問題、教育支援、国際活動など、幅広く興味をもっている

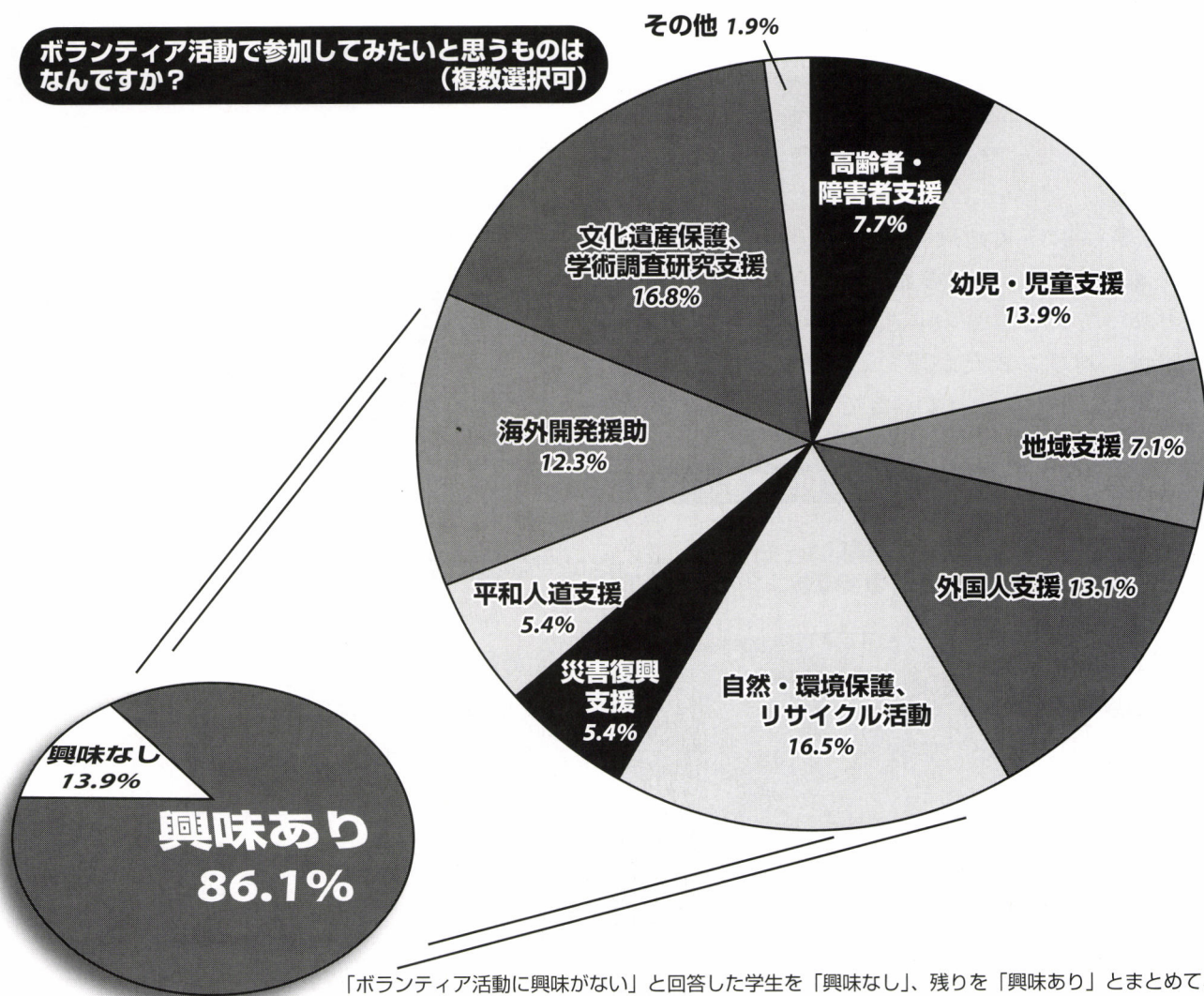
わが国でも、阪神・淡路大震災の復興活動などを契機に、学生のボランティア活動に対する社会の期待が高まってきていますが、本学では、ボランティア活動を行うことを期待されている学生の側の意識も、非常に高いことが分かりました。

興味のあるボランティア活動の種類は、「文化遺産保護、学術調査研究支援」と「自然・環境保護、リサイクル活動」が同程度で最も高く、学生の興味と結び付いたボランティア活動を指

向している様子が理解できます。その他にも、「幼児・児童支援」や「高齢者・障害者支援」といった、身近で現実的なボランティア活動や、「外国人支援」や「海外開発援助」などの国際的な活動にも高い関心を持っているようです。

このように、学生の関心は、非常に幅広い分野にわたっており、なおかつ、自分でできそうな現実的な問題に向けられていることが分かります。

ボランティア活動で参加してみたいと思うものは
なんですか？
(複数選択可)



「ボランティア活動に興味がない」と回答した学生を「興味なし」、残りを「興味あり」とまとめて、「興味あり」の学生の回答から参加したいジャンルを集計しています。